

362	2008/08/15	80362	日本生物製剤	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤	日本	有効成分	有	有	無	感染	HPA/Health Protection Report 2(13) 2008年3月28日	2007年にNBSはイングランドのPrimary and Acute Care Trustsからの170000例以上の出産前検体を検査した。計819検体が感染マーカー陽性であった。429例(0.28%)がHBsAg陽性、165例(0.11%)が抗HIV陽性、225例(0.13%)が抗Treponema pallidum陽性であった。また1798例(2.5%)が風疹に対する抗体が陰性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 2(19) 2008年5月9日	2000年1月1日～2007年12月31日に、手術を介したCJDへの潜在的な医原性暴露は計329件報告された。2007年7月1日から12月31日の間に11件が追加された。NATA(National Anonymous Tonsil Archive)は2008年8月末までに計61619例の扁桃腺組織検体を受け取った。2007年1月末から扁桃腺組織中の異常プリオン蛋白の有無に関するスクリーニングが行われている。
												C型肝炎	HPS Weekly Report 2008: 42(20): 176-187	スコットランドで2007年10～12月に349例のHCV抗体陽性新規症例が診断された。2005年と2006年の同時期の新規症例数は各々377例および365例であった。HCV診断の累積数は23686例であり、その内12%の死亡が確認されている。2007年12月31日現在、スコットランド人口の約250人に1人がHCV抗体陽性と診断された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080707.2058	英国National CJD Surveillance Unitによると2008年7月4日現在の英国における確定および疑いvCJD症例数は計167例で、内3例は生存中である。フランスInstitut de Veille Sanitaireの2008年7月7日付け月間集計によると同国で1992-2008年に記録されたvCJD確定および疑い症例数は23例で全て死亡している。
363	2008/08/20	80363	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	—	製造工程	無	無	無			
364	2008/08/20	80364	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20071227.4149	トーゴの農業畜産水産省は、同国北部で炭疽が発生し、6人が死亡したと発表した。2007年12月初めに北部の草原で家畜に炭疽が発生し、病気のウシの肉を食べた。他の感染者は病院で治療中である。トーゴ政府は発生地域に医療チームを派遣し、ウシの予防接種等の対策を打ち出した。住民に、死亡のまたは病気のウシを食べないように警告している。

												炭疽	ProMED-mail20080603.1775	80364に同じ
												炭疽	ProMED-mail20080608.1826	80364に同じ
366	2008/08/21	80366	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	ヒト成人肺組織及びヒトさい帯内皮細胞由来 cDNAを組み込んだチャイニーズハムスター卵巣細胞	米国	有効成分	無	無	無			
367	2008/08/21	80367	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
368	2008/08/21	80368	旭化成ファーマ	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	抗トロンボモデュリンアルファマウスモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ細胞をマウス腹腔内に接種して得られた腹水	米国	製造工程	無	無	無			
369	2008/08/21	80369	エール薬品	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻止剤	豚小腸	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	ブドウ球菌感染	HPA/Health Protection Report 2(25) 2008年6月20日	最近、英国HPSIは2007年にヒトにおいて発生したいわゆるコミュニティMRSAのブタ株であるST398株感染症例3例を報告した。これらは英国における初めての症例であるが、全員治療に成功した。ここ数年、ヨーロッパ大陸の家畜のブタにおいて無症候性のST398株の定着の増加が認識されている。ブタ関連MRSA(ST398)のヒト症例を更に同定するため、HPAは臨床検査による監視の継続の必要性を改めて表明する。
												ブドウ球菌感染	HPS Weekly Report 2008; 42(23): 203	MRSA分離株であるST398株は、ヒトに伝播し、感染を引き起こす可能性のあるブタ関連株であることが示唆されている。英国では今まで動物またはヒトからのST398株分離の報告はなかった。2007年にScottish MRSA Reference Laboratoryはヒトから分離され、MLSTによって同定された3例のST398株を受け取った。これらの分離株は最も普遍的なST398株と同一ではなかった。疫学的調査の結果、3例は同時期に入院しておらず、ブタや養豚業者との関連はなかったことが確認された。

370	2008/08/22	80370	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモステム	ミリモステム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	有	無	無	手足口病	WHO/EPR 2008年5月1日	中国におけるエンテロウイルス:2008年4月29日現在、中国で乳幼児におけるエンテロウイルス(EV-71)による手足口病が死亡20例を含む1884症例報告されている。死亡20例はAnhui省Fuyang市である。死亡例は全てEV-71感染による神経原性肺水腫のような重症の合併症により死亡した。全症例の死亡率は3月10-31日は11%であったが、4月17-29日には0.2%に減少した。
371	2008/08/22	80371	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモステム	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	サルモネラ	HPA/Health Protection Report 2(11) 2008年3月14日	2008年2月22日以降、HPAの腸管病原菌研究所(LEP)が受け取る、まだ命名されていない同じファージ型パターンを示すネズミチフス菌の分離株数が増加している。パターンは現在認識されているネズミチフス菌のファージ型とは異なり、PT U320と命名された。LEPはイングランドとウェールズ在住者においてネズミチフス菌PT U320感染のヒト症例51例を確定した。分離株は全て抗生物質に対し十分に感受性があった。患者は10ヶ月から92歳で、31例中30例は2月17日から25日に発症した。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
												クラミジア感染	Sex Transm Dis 2008; 35: 377-382	ウィーンで2005年11月から2006年11月に鼠径リンパ肉芽腫を有し、Chlamydia trachomatis DNA陽性の男性同性愛の患者24名から得られた検体について遺伝子的な解析を行った。24検体中15例のC. trachomatisがbiovar L2、7例がbiovar D、FまたはGであった。8検体においてompAの可変領域にL2bの変異型が認められた。また4検体においてL2配列の3箇所に変異が見られ、新規株として各々L2c、L2d、L2eと命名された。
372	2008/08/22	80372	第一三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
373	2008/08/22	80373	第一三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の脾臓	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			

374	2008/08/25	80374	日本製薬	①加熱人血漿たん白 ②人血清アルブミン(5%) ③人血清アルブミン(20%) ④人血清アルブミン(25%) ⑤乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ⑥トロンビン ⑦乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ ⑧人免疫グロブリン ⑨乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	①～⑧製造工程、 ⑨添加物・製造工程	無	無	無			
375	2008/08/26	80375	ベネシス	ウロキナーゼ	精製ウロキナーゼ液	人尿	中国	有効成分	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
												日型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294	最小感染量を求めるために、遺伝子型Aまたは遺伝子型CのHBVを含む急性期前の接種株をチンパンジーに接種したところ、最小50%チンパンジー感染量(CID50)は各々約10コピーと推定された。最低感染量を接種したチンパンジーにおけるHBV DNA ウィンドウ期は遺伝子型Aでは55-76日、遺伝子型Cでは35-50日、HBs Agウィンドウ期は遺伝子型Aでは69-97日、遺伝子型Cでは50-64日であった。またHBV DNAダブリングタイムは遺伝子型Cの方が遺伝子型Aに比べ有意に短かった。
												E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	2004年1月1日～2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と臓臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となった。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。
												ヒトポリオーマウイルス感染	Science 2008; 319: 1096-1100	メルケル細胞癌(MCC)検体をdigital transcriptome subtraction法を用いて検査し、新種のポリオーマウイルスを同定し、メルケル細胞ポリオーマウイルス(MCVまたはMCPyV)と命名した。このウイルスはMCC腫瘍10検体中8例(80%)で検出されたが、対照組織検体では59例中5例(8%)、対照皮膚組織検体では25例中4例(16%)でしか検出されなかった。MCVがMCCの病原因子である可能性が示唆された。

376	2008/08/27	80376	シェリン グ・ブラウ	インターフェロンアルファ-2b(遺伝子 組換え)	人血清アル ブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	デング熱	ProMED- mail20080120.0255	カンボジアでは2007年にデング熱により407名が死亡し、最近10年間で最高の死亡者数となったと保健省は2008年1月4日に発表した。死亡例の大部分は小児であった。デング熱は同国における慢性的な問題であるが、2007年は雨季の到来が例年より早かったことも原因であるとしている。2007年は40000例以上の患者がデング熱で入院した。
												ウイルス感染	Liver Transpl 2007; 13: 1703-1709	サイトメガロウイルス(CMV)ドナー陽性/レシピエント陰性(D+/R-)肝移植における抗ウイルス薬(ガンシクロビルまたはバルガンシクロビル)予防投与の効果調べた。予防投与中にはCMV病は発症しなかったが、予防投与中止1、3、6、12および24ヶ月後に各々2%、25%、27%、27%および29%の患者で初発CMV病が観察された。女性および若年患者で遅発性初発CMV病のリスクが増加し、糖尿病患者ではリスクが有意に低下した。
												ウイルス感染	共同通信 2008年2 月7日	オーストラリアで臓器移植を受けた後に相次いで死亡した3人の患者から、未知のウイルスを新しい手法で発見したと、米コロンビア大などのチームが6日、米医学誌に発表した。チームは生物のゲノムを解読するための高性能配列解読機を駆使し、患者の遺伝子から未知の配列の遺伝子断片をふるい分け、これまで知られていないアレナウイルスの一種を発見した。
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
												デング熱	ProMED- mail20080211.0549	ブラジルにおいて2007年のデング熱による死亡症例数は158例で、2006年の78例の2倍以上であった。2008年1月になり減少している。2008年2月4日に発行された保健省の冊子によると、2007年に全国で559954例のデング症例が登録され、このうち1541例がデング熱であった。Parana州南部地域では2007年12月のデング熱届出症例数は8356例となり、2006年同時期と比較して827%増加した。

											ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。	
											バベシア症	Blood 2007; 110(11, Part 1): 853	米国コネチカット州での輸血によるBabesia microti感染の危険性を評価するため、2004-2007年に収集されたドナーとレシピエントの保存検体を検査した。その結果、45回の赤血球輸血を受けていた患者1例でBabesia microti感染が確認されたが、血清検体陽性のドナーを特定することはできなかった。危険性は1920回の赤血球輸血で0例または1例と計算された。	
											鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7型トリインフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性を調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3型、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2型は α 2-6結合シアル酸に対する親和性を高めたHAを保有していた。また2003年にニューヨークの男性から分離された低病原性H7N2型はフェレットの上気道で効率的に増殖し、直接接触で感染できることが確認された。	
379	2008/08/28	80379	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	米国、カナダ、オランダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
380	2008/08/28	80380	化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	有	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。

386	2008/08/28	80386	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④ジフテリア破傷風混合トキソイド ⑤ジフテリアトキソイド ⑥コレラワクチン ⑦乾燥ジフテリアウマ抗毒素 ⑧乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 ⑨沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ⑩破傷風トキソイド	ペプトン	ブタ胃	日本、米国	①添加物、 ②～⑩製造工程	無	無	無				
387	2008/08/28	80387	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	①～③製造工程・ 添加物、 ④製造工程	無	無	無				
388	2008/08/28	80388	バクスター	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞株	該当なし	有効成分	無	無	無				
389	2008/08/29	80389	味の素	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無				
390	2008/09/01	80390	東菱薬品工業	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	無	無	無				
391	2008/09/01	80391	東菱薬品工業	ヘモコアグラーゼ	ヘモコアグラーゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無				
392	2008/09/01	80392	持田製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	無	無	無				
393	2008/09/01	80393	持田製薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無				

品目	受理日	番号	製作者名	品名	原料	成分	製造工程	有効成分	無	無	無			
394	2008/09/01	80394	持田製薬	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	日局 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス、デンマーク、スウェーデン、イギリス、アイルランド	有効成分	無	無	無			
395	2008/09/03	80395	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
396	2008/09/03	80396	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハート インフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
397	2008/09/03	80397	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
398	2008/09/03	80398	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

399	2008/09/03	80399	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
400	2008/09/03	80400	阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1)	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
401	2008/09/03	80401	阪大微生物病研究会	発疹チフスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
402	2008/09/04	80402	川崎三鷹製薬	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
403	2008/09/05	80403	味の素	バルナバリンナトリウム注射液	バルナバリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
404	2008/09/08	80404	中外製薬	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巢細胞	チャイニーズハムスター卵巢	不明	製造工程	無	無	無			
405	2008/09/08	80405	中外製薬	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	ペプトン	ブタ胃組織	米国	製造工程	無	無	無			
406	2008/09/09	80406	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	—	米国、カナダ	有効成分	無	無	無			
407	2008/09/09	80407	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	発注日	品番	製薬会社	品名	原料	産地	製造工程	無	無	無				
408	2008/09/09	80408	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ膵臓	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
409	2008/09/09	80409	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
410	2008/09/09	80410	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
411	2008/09/09	80411	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポプロテイン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
412	2008/09/09	80412	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
413	2008/09/09	80413	田辺三菱製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫	—	製造工程	無	無	無			
414	2008/09/10	80414	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
415	2008/09/10	80415	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミアンシド	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

416	2008/09/10	80416	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
417	2008/09/10	80417	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
418	2008/09/10	80418	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
419	2008/09/10	80419	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
420	2008/09/10	80420	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
421	2008/09/10	80421	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペプシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			

品目	年月日	数量	報告者	品名	原料	製造国	製造工程	無	無	無			
422	2008/09/10	80422	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタ臍臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無		
423	2008/09/10	80423	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクトカジン	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無		
424	2008/09/10	80424	武田薬品工業	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④日本脳炎ワクチン ⑤乾燥日本脳炎ワクチン ⑥乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	①～③アメリカ合衆国、ニュージーランド、オーストラリア ④、⑤ニュージーランド ⑥ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無		
425	2008/09/10	80425	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシの乳	アメリカ合衆国、日本	製造工程	無	無	無		
426	2008/09/10	80426	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無		

ID	登録年	申請番号	製薬会社	成分	原料	製造国	製造工程	無	無	無				
427	2008/09/10	80427	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
428	2008/09/10	80428	武田薬品工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
429	2008/09/10	80429	武田薬品工業	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
430	2008/09/10	80430	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無			
431	2008/09/10	80431	ファイザー	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	中国	有効成分	無	無	無			
432	2008/09/10	80432	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 308- 310	イヌにおける自然接触の曝露による高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)の感染性を調べた。H5N1ウイルスを眼-鼻咽喉接種したイヌは2日以内に結膜炎および体温上昇を呈し、鼻咽喉スワブからウイルスRNAが検出された。しかし、接触したイヌやネコには感染しなかった。感染したネコからイヌへの感染も起こらなかった。またH5N1ウイルスに対し、ネコの方がイヌより感受性が高いことが示唆された。
												鳥インフルエンザ	Vector-borne Zoonotic Dis 2008; 8: 105-109	2005年10月のタイ中部における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイク中に養鶏場で採集された充血した蚊をRT-PCRで調べたところ、H5N1ウイルス陽性であり、H5およびN1断片のシーケンスにより確定された。このウイルスの感染性および複製はC6/36蚊細胞系で確認された。家畜や動物の血で充血した蚊を採集し検査することはH5N1ウイルスの拡大を調査するための有用な方法である。

ID	登録日	番号	報告者名	内容	原料	製造国	製造工程	無	無	無			
438	2008/09/16	80438	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
439	2008/09/16	80439	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 乾燥ポツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無		
440	2008/09/16	80440	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無		
441	2008/09/16	80441	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン アガー	ウシ乳・心臓	—	製造工程	無	無	無		
442	2008/09/16	80442	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン ブイオン	ウシ乳・心臓	—	製造工程	無	無	無		
443	2008/09/16	80443	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無		

444	2008/09/16	80444	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
445	2008/09/16	80445	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
446	2008/09/16	80446	化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7インフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性をグリカンマイクロアレイ法を用いて調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3ウイルス、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2ウイルスなど北米系統のH7インフルエンザウイルスはシアル酸結合性を獲得し、感受性のある動物に拡がる可能性が示された。
447	2008/09/16	80447	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
448	2008/09/16	80448	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	肝臓	モルモット肝臓	—	製造工程	無	無	無			
449	2008/09/16	80449	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血液	モルモット血液	—	製造工程	無	無	無			

450	2008/09/16	80450	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心	捕鯨国: 日本	製造工程	無	無	無			
451	2008/09/16	80451	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
452	2008/09/16	80452	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
453	2008/09/16	80453	化学及血清療法研究所	①乾燥日本脳炎ワクチン ②乾燥弱毒生麻しんワクチン ③乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン ④乾燥弱毒生風しんワクチン ⑤乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	①、③～⑤添加物、 ②製造工程	無	無	無			
454	2008/09/16	80454	化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	有	無	無	ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästerbotten地方の流行性腎症患者の数は100,000人当り313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの一因であろうと考えられる。
455	2008/09/16	80455	日本メジフィックス	放射性医薬品基準テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)注射液	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
456	2008/09/22	80456	マイラン製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			

ID	発症日	年齢	性別	職業	病原体	宿主	地域	有効成分	有	無	無	野兎病	参考文献	内容
457	2008/09/22	80457	—	フジモト・ダイアグノスティック	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	日本白色種家兎皮膚抽出液	中国	有効成分	有	無	無	野兎病	千葉県健康福祉部 疾病対策課 感染症発生情報 平成20年3月4日	2008年1月30日、千葉県で74歳男性が野ウサギ食べようと調理したところ、2月7日頃から発熱した。2月29日に医療機関から野兎病の発症例として地元保健所に報告された。患者は既に回復している。また、野ウサギを提供した知人および患者家族の健康に異常はない。国立感染症研究所によると、野兎病は1994年までに1372例の患者が報告されていたが、その後減少し、1999年の千葉県での1例以降報告されていない。
												野兎病	JAPIC Daily Mail No.1668 2008年3月13日	福島県の50代男性が野兎病に感染。この男性は2008年1月中旬に、野ウサギを狩猟し、皮を剥ぐなどの作業をした。2月には千葉県の男性の感染が、国内で9年ぶりに判明した。
												野兎病	第62回日本細菌学会東北支部総会 2008年8月21-22日	2008年5月に青森県の農場で衰弱死したトウホクノウサギを病理解剖したところ、脾臓・リンパ節の腫脹が顕著であったため、脾臓からの細菌分離を行い、同定を試みた。純培養菌の生化学的性状試験およびPCR法による特異遺伝子の検出より、野兎病菌(<i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>Holarctica</i>)と同定した。青森県では1990年以来初めての野兎病発生報告である。
458	2008/09/22	80458	持田製薬	日本薬局方 注射用ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	日局 ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
												細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 099	平成17-19年度に国内医療機関より検査依頼のあったヒト刺咬マダニについて病原体検索を行った。その結果、52症例54個体中3例で寄生マダニよりボレリアDNAが検出された。Borrelia valaisiana近縁種による世界で初めてのライム病症例を見出した。また、新しいボレリア感染症 Southern tick-associated rash illnessが国内のキチマダニによって媒介される可能性を初めて示した。
												マラリア	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 431	平成18年5-9月にバブアニューギニア、インドネシア、タイに滞在していた29歳女性が帰国2ヶ月後に39°Cの発熱と著明な血小板減少を呈し、血液塗抹標本鏡検で三日熱マラリア原虫と四日熱マラリア原虫が認められ、治療された。後日、血液塗抹標本から抽出したDNAをPCR検査したところ、三日熱マラリアとサルマラリアの重複感染と診断された。サルマラリア感染は国内では検索した範囲では報告がない。

ID	承認日	承認番号	持田製薬	成分名	原料	抽出液	製造国	有効成分	有	無	無	病原体	参考文献	備考
												手足口病	WHO/EPR 2008年5月1日	中国におけるエンテロウイルス:2008年4月29日現在、中国で乳幼児におけるエンテロウイルス(EV-71)による手足口病が死亡20例を含む1884症例報告されている。死亡20例はAnhui省Fuyang市である。死亡例は全てEV-71感染による神経原性肺水腫のような重症の合併症により死亡した。全症例の死亡率は3月10-31日は11%であったが、4月17-29日には0.2%に減少した。
												細菌感染	IASR 2008; 29: 194-195	肺炎患者の喀痰と患者が入浴した温泉水からLegionella rubrilucensを分離した。患者喀痰と温泉水から分離されたL. rubrilucensについてPFGEによるDNA切断パターンを調べたところ、同一パターンであった。レジオネラ症患者からの菌分離はL. pneumophilaが主であり、当該菌のヒトからの分離例は国内外で初めてである。
459	2008/09/22	80459	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	80458に同じ
												細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 099	80458に同じ
												マラリア	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 431	80458に同じ
												手足口病	WHO/EPR 2008年5月1日	80458に同じ
												細菌感染	IASR 2008; 29: 194-195	80458に同じ
460	2008/09/22	80460	持田製薬	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
461	2008/09/22	80461	持田製薬	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ膵臓	-	製造工程	無	無	無			
462	2008/09/22	80462	持田製薬	①硫酸フラジオマイシン/結晶トリプシン ②インターフェロン ベータ	トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド	①有効成分 ②製造工程	無	無	無			

463	2008/09/22	80463	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
464	2008/09/22	80464	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリプシン	ブタ膵臓	-	製造工程	無	無	無			
465	2008/09/22	80465	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
466	2008/09/25	80466	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	有	無			
467	2008/09/25	80467	バイエル薬品	イットリウム(90Y)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調製用 インジウム(111I)イブリツモマブ チウキセタン(遺伝子組換え)注射液調製用	ウシ乳加水分解物	ウシ乳	オーストラリア又はニュージーランド	製造工程	無	無	無			
468	2008/09/25	80468	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
469	2008/09/25	80469	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
470	2008/09/25	80470	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
471	2008/09/25	80471	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
472	2008/09/25	80472	北里研究所	①コレラワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	①、②中国、ポーランド、 ③、④中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

473	2008/09/25	80473	北里研究所	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブ ミン水解物	ウシ乳	①オーストラリア、 ニュージーランド、 ②、③オーストラリア、 ニュージーランド、米 国、カナダ	製造工程	無	無	無			
474	2008/09/25	80474	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイ シンラクチビ オン酸塩	ウシ乳	ニュージー ランド、カナ ダ、米国	製造工程	無	無	無			
475	2008/09/25	80475	北里研究所	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血 清、新生仔 牛血清	ウシ血液	①、③ ニュージー ランド、 ②オースト ラリア	製造工程	無	無	無			
476	2008/09/25	80476	北里研究所	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	①ニュー ジーランド、 米国 ②、③ ニュージー ランド	添加物	無	無	無			
477	2008/09/25	80477	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロー ル	ヒツジ毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
478	2008/09/25	80478	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無			
479	2008/09/25	80479	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			

480	2008/09/25	80480	北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1株)	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7インフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性をグリカンマイクロレイ法を用いて調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3ウイルス、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2ウイルスなど北米系統のH7インフルエンザウイルスはシアル酸結合性を獲得し、感受性のある動物に拡がる可能性が示された。
481	2008/09/25	80481	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	80480に同じ
482	2008/09/25	80482	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
483	2008/09/25	80483	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
484	2008/09/25	80484	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
485	2008/09/25	80485	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
486	2008/09/25	80486	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	日本	有効成分	無	無	無			
487	2008/09/25	80487	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
488	2008/09/25	80488	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			

489	2008/09/25	80489	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
490	2008/09/25	80490	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
491	2008/09/26	80491	日医工	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
492	2008/09/26	80492	日医工	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
493	2008/09/26	80493	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa073785	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に關係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
												リンパ性脈絡髄膜炎	boston.com 2008年5月13日	2008年5月12日の保健当局発表によると、ボストンの病院で検出が難しいウイルスに感染したドナーから腎臓を移植された70歳女性が死亡し、57歳男性が危篤である。ドナーと患者2名の検体をCDCが検査したところ、全員、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性であり、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にはエイズウイルス、肝炎ウイルスなどの検査は行ったが、LCMVの検査は行っていなかった。

ID	受理日	番号	製薬会社	製品名	成分	原料	国	有効成分	有	無	無	病原体	参考文献	備考
												バルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	80493に同じ
496	2008/09/26	80496	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 10.1056/NEJMoa073785	80493に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	80493に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	boston.com 2008年5月13日	80493に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	80493に同じ
497	2008/09/26	80497	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	B型肝炎、E型肝炎	Veterinary Science in China 2007; 37: 921-925	中国の畜殺場から集めたブタの肝臓と血清からDNAを抽出し、PCRを使ってs遺伝子を増幅し配列決定を行った結果、ブタとヒトのHBVのS遺伝子の配列は98-100%の相同性を示した。また、RT-PCRによるHEV RNA検出を行った結果、HEV RNAがブタの肝臓に存在することが示された。
498	2008/09/26	80498	ベネシス	①ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ②人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血液	①日本、 ②米国	有効成分	有	有	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。

ID	疾病名	発生年	発生地								
	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 834-836									カナダにおいて、Saffoldウイルスに関連するカルジオウイルス分離株が呼吸器症状を有する3名の小児の鼻咽頭吸引物から検出された。Can112051-06分離株のポリプロテイン配列は、Saffoldウイルスと91.2%のアミノ酸同一性を有した。しかし、ウイルス表面のEF及びCDのループは、かなり異なっていた。
	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047									出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
	ウイルス感染	WHO Representative Office in China 2008年5月19日									2008年3月下旬、中国安徽省Fuyang市で未就学児3名が重症の肺炎と急激な悪化により死亡し、4月中旬までに15名の小児が同様の疾患で死亡した。調査の結果、エンテロウイルス71による手足口病と確定された。同市では、3月1日から5月9日の間に、6,049例報告され、353例が重症で、22例が死亡した(致死率0.4%)。患者数は、4月の初めに増加し始めて、4月28日にピークに達し、5月5日以後減少した。
	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708									米国の国立プリオン病病因調査センターに2002年5月から2006年1月に紹介された患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSP _{Pr})と名付けた。PSP _{Pr} は、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
	ウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1180-1187									米国テキサス南東部の健康な成人ドナー100名の血液中のヒトヘルペスウイルス(HHV)陽性率とウイルスDNA量をRT-PCRにより調べた。その結果、HSV-1、HSV-2、VZV及びHHV-8 DNAはどの検体からも検出されなかった。一方、EBVは72%、HHV-7は65%、HHV-6は30%、CMVは1%に検出された。また、1名の血液から 6.1×10^7 geq/mlを超えるHHV-6 Type Bが検出されたが、健常者における異常な高値は活動性感染や免疫不全とは関連が無いと思われる。

品名	承認番号	製造国	成分	原料	製法	用途	有効成分	添加物	副作用	禁忌	注意	参考文献	備考	
												バルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	血漿由来製品によるバルボウイルスB19伝播リスクを低減するための核酸増幅検査(NAT)についてのガイダンス案が示された。全ての血漿由来製剤について、製造プール中のバルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷を確実に10000 IU/ml未満とするため、製造過程の品質管理検査としてNATを実施すべきである。ミニプール中でのNATの感度は少なくとも1000000 IU/mlとすべきである。これらの基準を超えるものは使用してはならない。
499	2008/09/26	80499	ベネシス	①人血清アルブミン ②乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 ③乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	人血清アルブミン	人血液	日本	①有効成分 ②③添加物	有	有	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80498に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294	80498に同じ
												E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	80498に同じ
												ヒトポリオーマウイルス感染	Science 2008; 319: 1096-1100	80498に同じ

品名	承認番号	製造元	成分	性状	用途	承認国	有効成分	有	無	無	副作用	参考文献	備考	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	80498に同じ	
											ウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1180-1187	80498に同じ	
											バルボウィルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	80498に同じ	
500	2008/09/26	80500	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80498に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294	80498に同じ

ID												
										E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	80498に同じ
										ヒトポリオーマ ウイルス感染	Science 2008; 319: 1096-1100	80498に同じ
										感染	56th Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene 1044	80498に同じ
										異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2008; 48: 609-619	80498に同じ
										ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 834-836	80498に同じ

ID	登録日	登録番号	報告者名	製剤名	成分名	血液	国	有効成分	有	無	有	疾病	参考文献	備考
501	2008/09/26	80501	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	血液凝固第Ⅲ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	有	レプトスピラ症	Infect Genet Evol 2008, doi:10.1016	コスタリカにおいて、レプトスピラ症の入院患者から分離されたレプトスピラは、Javanica血清群型に分類される新しい血清型で、Arenalと命名された。同じ地区の重症患者から分離された株も同じ血清型であったことから、この株は、この地域に流行する新規の高病原性の血清型であると考えられた。
												リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
502	2008/09/26	80502	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	有	レプトスピラ症	Infect Genet Evol 2008, doi:10.1016	80501に同じ
												リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	80501に同じ
503	2008/09/26	80503	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加人免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	有	レプトスピラ症	Infect Genet Evol 2008, doi:10.1016	80501に同じ
												リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	80501に同じ

504	2008/09/26	80504	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ胚	日本、米国、メキシコ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7インフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性をグリカンマイクロレイ法を用いて調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3ウイルス、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2ウイルスなど北米系統のH7インフルエンザウイルスはシアル酸結合性を獲得し、感受性のある動物に拡がる可能性が示された。
505	2008/09/26	80505	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリブシン	ブタ膀胱	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
506	2008/09/26	80506	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
507	2008/09/26	80507	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
508	2008/09/26	80508	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
509	2008/09/26	80509	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	無	無	無			
510	2008/09/26	80510	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者	品名	原料	製造国	製造工程	無	無	無			
511	2008/09/26	80511	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無		
512	2008/09/26	80512	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	無	無	無		
513	2008/09/29	80513	日新製薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無		
514	2008/09/29	80514	日新製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	無	無	無		
515	2008/09/29	80515	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無		
516	2008/09/29	80516	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6月1-5日 マサチューセッツの医療センターで品質管理のため使用された廃棄製剤、使用期限切れロット、アフエレーシスの残り的人血清アルブミン製剤を入手し、クラミジアの有無を調べた。その結果、PCR及びウエスタンブロットにより、4社の20製剤全てにおいてクラミジアの存在が確認された。また、in vitro培養を行ったところ11検体(55%)でクラミジア生菌が生育した。
												デング熱	Hong Kong Med J 2008; 14: 170-177 1998~2005年に香港の公立病院に入院したデング確定患者全員の医療記録をレトロスペクティブに検討した。126例中123例(98%)がデング熱、3例(2%)がデング出血熱であった。1例が輸血により感染したデング熱であった。116例が輸入症例、10例が地域症例であった。デングウイルス1型が最も多く、次に2型、3型、4型の順であった。死亡例はなかった。発熱、皮疹を呈し、血小板減少などを示す渡航歴のある患者には鑑別診断にデング熱を含めるべきである。
												ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645 2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。

												ウエストナイルウイルス	Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117	文献および未発表データから、ラテンアメリカやカリブ海地域のウエストナイルウイルス(WNV)感染の現状をまとめた。WNV感染は2001年にCayman諸島とFlorida Keysの住民で見られ、2002～2004年にジャマイカ、メキシコなど周辺地域で動物や鳥類での感染が確認されている。しかし、疾患報告数は少ない。この不可解な熱帯生態系でのウイルス減弱または他の可能性を検討するためには分離株が必要である。
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080709.2092	2008年7月7日、トルコのBursa、CanakkaleおよびSamsunの病院でダニ媒介性疾患であるクリミア・コンゴ出血熱により3名が死亡し、この2ヶ月での死者数は37名となった。保健省はダニに注意するよう呼びかけ、咬まれた場合は決して手でつぶさずに、医師にピンセットで注意深く取り除いてもらい、ヨードで消毒することを推奨している。
												バルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 1036-1037	大阪における1997-1999年の献血者979052名中102名がヒトバルボウイルスB19感染者であった。B19感染者のうち20名のB19 DNA、IgGおよびIgMを長期間フォローアップしたところ、B19持続感染が観察されたが、B19感染の症状を報告した者はいなかった。B19急性感染後の血漿ウイルス力価は約1年で 10^4 IU/mL未満、約2年で 10^1 IU/mL未満まで下がることが示された。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
												ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästerbotten地方の流行性腎症患者の数は100,000人当り313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの一因であろうと考えられる。

											ウイルス感染	ProMED-mail20080720.2201	オーストラリアBrisbaneの動物病院のスタッフが致死性のヘンドラウイルスに感染した。看護師1名と獣医1名が、感染したウマ数頭を治療後、感染した。前回のアウトブレイクは1994年で調教師1名とウマ14頭が死亡した。同ウイルスがヒト-ヒト感染するとのエビデンスはなく、拡大する危険性はない。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	国立プリオン病病因調査センターの患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSP)と名付けた。PSPは、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめつたに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイビー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイビー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2008; 82: 3697-3701	非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASEウシ由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアイソフォームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ向性であった。

											インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名の内54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。
											インフルエンザ	AABB Weekly Report 2008年2月29日	インフルエンザパンデミックと血液供給に関するAABBの作業部会は、パンデミック時に供血間隔の例外的な取り扱いを認めるよう2月14日にFDAに対し要望書を送付した。パンデミック時には適格な供血者数が制限されることが予想されるため、全血および赤血球採取の間隔を短くすることが最も有効であるとしている。
											インフルエンザ	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40	米国におけるパンデミックインフルエンザの血液供給に対する影響をシミュレーションした。3ヶ月間の血液供血量が50%減少した場合、血液需要に制限がない場合は在庫のほとんどを使い尽くしたが、血液の使用を必要最低限に制限した場合は在庫がなくなることはなかった。
											ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。

ID	発症日	患者	性別	年齢	職業	輸血	成分	国	有効成分	有	無	無	病原体	参考文献	内容
													E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	2004年1月1日～2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と膵臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となった。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。
													E型肝炎	第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 O-026	北海道地区において現行プールNATスクリーニングの残量を用いてTaqMan RT-PCR法によるHEV NATスクリーニングを行った。陽性献血者85例について追跡調査および遡及調査などを行なった。陽性献血者の多くは動物内臓肉を食してHEVに感染したと考えられる新規感染者で、GenotypeはG3が多かった。多くは症状が現れないまま抗体が陽転化し、典型的な無症候性一過性感染の経過をたどった。
													E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015	スペインでブタに曝露しているヒト101名と曝露していないヒト97名におけるHEV感染の有無を調べた。抗HEV IgG保有率は曝露群では18.8%、非曝露群では4.1%であった。ブタに接するヒトの抗HEV IgG保有リスクは5.4倍(P=0.03)であった。HEV感染は養豚作業員の職業病として扱うべきである。
517	2008/09/29	80517	日本赤十字社	—	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 193-201	ルックバック調査でPropionibacterium acnes汚染が推定される血小板濃縮製剤(PC)の保存から輸血までを追跡したところ、輸血後の有害事象は見られなかった。In vitro試験でプロピオン酸菌属の臨床分離菌をPCに接種し、好氣的に22°Cで10日間保存という条件下での生育を調べたところ、細菌の生育は緩慢か生育を認めなかった。プロピオン酸菌属はPC保存条件下では増殖しないため、検出されないか、輸血後に検出されると考えられた。	

ID	疾病名	報告者	報告日	報告内容	備考
	ブルセラ症				<p>Clin Infect Dis 2008; 46: e131-136</p> <p>急性ブルセラ症患者39名の血液検体中のBrucella DNAの存在をRT-PCR法により調べた。その結果、治療終了時では87%、治療完了後6ヶ月では77%、治療後2年を過ぎても70%の患者で、無症候性であるにもかかわらず、Brucella DNAが検出された。適切な治療を行い、回復したように見えても、Brucella DNAは存続する。ブルセラ菌は除去不可能な持続性の病原体である。</p>
	細菌感染				<p>第56回 日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 WS-3-3</p> <p>血小板濃厚液の輸血後に、TRALI様の急性呼吸不全と髄膜炎を併発し、血小板残液からBacillus cereusが検出された症例の報告である。TRALI様の急性呼吸不全を呈した際は、輸血後感染症も視野に入れた対応が必要である。髄膜炎併発例の報告はこれまでに無いが、輸血後感染症治療では髄液移行性も考慮した抗生剤選択が求められる。培養検査だけでなく、遺伝子検査まで施行することが、診断及び同一菌株の証明に重要である。</p>
	サルモネラ				<p>CDC 2008年7月8日</p> <p>CDCは関係機関と協力して複数の州で発生したサルモネラ血清型セントポールのアウトブレイクを調査している。生のトマトの摂食が原因と考えられている。2008年4月以降2008年7月7日までに、米国の41の州、ワシントンD.C.およびカナダで991名の患者が同じ遺伝子パターンのサルモネラ血清型セントポールに感染したことが確認された。</p>
	ペスト				<p>Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459-1462</p> <p>2003年6月から7月にアルジェリアOran地区においてペストの集団感染が発生した。同国では、この疾患は50年以上報告されていなかった。腺ペスト症例18名が特定され、Yersinia pestisが6名から分離された。初発患者を除き、全員が回復した。標的予防的薬療法、衛生、ベクターコントロールが、感染制御上重要な役割を果たした。疫学的、分子生物学的な知見から、当該期間中、現地の保菌動物の存在が強く示唆されたが、その起源については特定できなかった。</p>

											梅毒	SignOnSanDiego.com 2008年3月26日	カリフォルニア州サンディエゴ郡の年間梅毒症例数は、最低となった2000年の28例から昨年(2007年)は340例まで急増した。州の他の大都市の郡と比べて非常に急激な増加である。増加率は州全体の2倍以上、全国の3倍以上になる。州から派遣された5名の専門家チームは、梅毒と診断された人々と連絡をとって、性的パートナーを探し、検査を受けるよう勧めている。
											バベシア症	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6月1-5日、Boston	米国中南部では稀な輸血によると考えられるBabesia microti感染症例の報告である。61歳の女性患者で、赤血球輸血後、吐き気と発熱を訴え、敗血症の症状を呈し、死亡した。血液塗抹標本で赤血球の5~15%にトロフォゾイト(栄養体)があった。患者血液検体中でBabesiaは形態学的に確認され、PCRでB. microti陽性であった。輸血された製剤の供血者のうち1名がB. microti陽性であった。
											アメリカ・トリパノソーマ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e44-47	血液製剤の輸血によりシャーガス病に感染し、死亡したスペイン人患者の寄生虫学的、血清学的疾患経過、ならびに供血者の調査の報告である。患者は白血病の既往があり、176名以上の供血者由来の輸血を受けていた。臍帯血移植のための免疫抑制状態で、寄生虫が血液脳関門を通過して神経系に感染したことが確認された。特定された供血者は無症候であった。複数回輸血患者は、免疫抑制剤治療実施前に、抗Trypanosoma cruzi抗体のスクリーニングを受けるべきである。
											アメリカ・トリパノソーマ症	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 39	米国で全供血者を対象にしたTrypanosoma Cruzi検査が導入された2007年1月30日以降、最初の10ヶ月間、供血者の調査を行った。適合供血のうちELISA法で反復陽性(RR)となったのは0.013%(90/651471)で、そのうちRIPA陽性は34%(28/82)で、陽性確認率は0.0043%であった。全供血のスクリーニングは費用対効果が低く、出生地と初回供血者に絞った対策の検討が示唆された。

											ウエストナイルウイルス	Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117	文献および未発表データから、ラテンアメリカやカリブ海地域のウエストナイルウイルス(WNV)感染の現状をまとめた。WNV感染は2001年にCayman諸島とFlorida Keysの住民で見られ、2002～2004年にジャマイカ、メキシコなど周辺地域で動物や鳥類での感染が確認されている。しかし、疾患報告数は少ない。この不可解な熱帯生態系でのウイルス減弱または他の可能性を検討するためには分離株が必要である。
											コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080709.2092	2008年7月7日、トルコのBursa、CanakkaleおよびSamsunの病院でダニ媒介性疾患であるクリミア・コンゴ出血熱により3名が死亡し、この2ヶ月での死者数は37名となった。保健省はダニに注意するよう呼びかけ、咬まれた場合は決して手でつぶさずに、医師にピンセットで注意深く取り除いてもらい、ヨードで消毒することを推奨している。
											バルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 1036-1037	大阪における1997-1999年の献血者979052名中102名がヒトバルボウイルスB19感染者であった。B19感染者のうち20名のB19 DNA、IgGおよびIgMを長期間フォローアップしたところ、B19持続感染が観察されたが、B19感染の症状を報告した者はいなかった。B19急性感染後の血漿ウイルス力価は約1年で10 ⁴ IU/mL未満、約2年で10 ² IU/mL未満まで下がること示された。
											リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。

											ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästerbotten地方の流行性腎症患者の数は100,000人当り313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの一因であろうと考えられる。
											ウイルス感染	ProMED-mail 20080720.2201	オーストラリアBrisbaneの動物病院のスタッフが致死性のヘンドラウイルスに感染した。看護師1名と獣医1名が、感染したウマ数頭を治療後、感染した。前回のアウトブレイクは1994年で調教師1名とウマ14頭が死亡した。同ウイルスがヒト-ヒト感染するとのエビデンスはなく、拡大する危険性はない。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	国立プリオン病病因調査センターの患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSP _{Pr})と名付けた。PSP _{Pr} は、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221- 1231	感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめつたに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイピー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイピー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。

ID	発行者	発行日	発行頻度	発行地域	発行言語	発行形式	発行内容	発行日	発行頻度	発行地域	発行言語	発行形式	発行内容
													<p>HIV</p> <p>ABC Newsletter 2008; No.26 2008年 7月4日</p> <p>米国医師会(AMA)は、男性同性愛行為を行った男性(MSM)の供血延期期間を生産としている連邦の方針を5年間に変更することを支持するという声明を採択した。AMAはこの新方針をFDAに通告し、この方針を推し進めるグループと協力していく。FDAは1977年以降、MSMの供血を生産延期することを血液事業者に要求しているが、アメリカ血液センターなどからは反対意見が出されている。</p>
													<p>インフルエンザ</p> <p>Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865- 1870</p> <p>カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名の内54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。</p>
													<p>インフルエンザ</p> <p>AABB Weekly Report 2008年2月 29日</p> <p>インフルエンザパンデミックと血液供給に関するAABBの作業部会は、パンデミック時に供血間隔の例外的な取り扱いを認めるよう2月14日にFDAに対し要望書を送付した。パンデミック時には適格な供血者数が制限されることが予想されるため、全血および赤血球採取の間隔を短くすることが最も有効であるとしている。</p>
													<p>インフルエンザ</p> <p>Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40</p> <p>米国におけるパンデミックインフルエンザの血液供給に対する影響をシミュレーションした。3ヶ月間の血液供血量が50%減少した場合、血液需要に制限がない場合は在庫のほとんどを使い尽くしたが、血液の使用を必要最低限に制限した場合は在庫がなくなることはなかった。</p>

											ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
											B型肝炎	第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓2007; 48(Suppl 3): A522	輸血によりHBs抗体エスケープ変異株に感染し、肝炎を発症した40歳代女性の症例報告である。献血者、受血者の塩基配列の解析を行って感染が証明された。核酸増幅検査を含む献血者のスクリーニングを行っているにもかかわらず、本邦では年間10-20例のHBV感染が報告されている。その原因の一つがHBs抗体エスケープミュータントであるが、本症例のように献血者、受血者ともに塩基配列の解析を行い感染が証明された例はきわめて稀である。
											B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294	最小感染量を求めるために、遺伝子型Aまたは遺伝子型CのHBVを含む急性期前の接種株をチンパンジーに接種したところ、最小50%チンパンジー感染量(CID50)は各々約10コピーと推定された。最低感染量を接種したチンパンジーにおけるHBV DNA ウィンドウ期は遺伝子型Aでは55-76日、遺伝子型Cでは35-50日、HBs Agウィンドウ期は遺伝子型Aでは69-97日、遺伝子型Cでは50-64日であった。またHBV DNAダブリングタイムは遺伝子型Cの方が遺伝子型Aに比べ有意に短かった。
											B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリेंटリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。

518	2008/09/29	80518	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え チヤイニース ハムスター卵 巣細胞	宿主細胞株 は、Dr.L.A. Chasin(Co lumbia Uni versity)より 入手したジ ヒドロ葉酸 還元酵素 (DHFR)欠損 チヤイニー ズハムス ター卵巣細 胞(CHO)細 胞系である	有効成分	無	無	無			
519	2008/09/29	80519	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
520	2008/09/29	80520	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
521	2008/09/29	80521	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
522	2008/09/29	80522	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
523	2008/09/29	80523	CSLベ ー リ ン グ	①人血清アルブミン ②人血液凝固ⅩⅢ因子 ③フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	①有効成分 ②③添加物	有	有	有	ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒトヒト感染を特定できなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	製剤	生体成分	原料名	製造国											
												ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。				
												バベシア症	Blood 2007; 110(11, Part 1): 853	米国コネチカット州での輸血によるBabesia microti感染の危険性を評価するため、2004-2007年に収集されたドナーとレシピエントの保存検体を検査した。その結果、45回の赤血球輸血を受けていた患者1例でBabesia microti感染が確認されたが、血清検体陽性のドナーを特定することはできなかった。危険性は1920回の赤血球輸血で0例または1例と計算された。				
												鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7型トリインフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性を調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3型、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2型は α 2-6結合シアル酸に対する親和性を高めたHAを保有していた。また2003年にニューヨークの男性から分離された低病原性H7N2型はフェレットの上気道で効率的に増殖し、直接接触で感染できることが確認された。				
524	2008/09/29	80524	CSLベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	有	有							
525	2008/09/29	80525	CSLベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	有	バベシア症	Blood 2007; 110(11, Part 1): 853	米国コネチカット州での輸血によるBabesia microti感染の危険性を評価するため、2004-2007年に収集されたドナーとレシピエントの保存検体を検査した。その結果、45回の赤血球輸血を受けていた患者1例でBabesia microti感染が確認されたが、血清検体陽性のドナーを特定することはできなかった。危険性は1920回の赤血球輸血で0例または1例と計算された。				

品名	製造日	ロット	内容	原料	抽出液	製造国	製造工程	無	無	無	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080724.2241	米国フロリダ州のウマにおいて致死性の高い東部ウマ脳炎(EEE)ウイルス感染が発生している。2007年、2006年の例数は各々、18例、17例であったが、2008年7月初旬までのウマのEEE確定症例数は56例となった。ヒトでの感染は起こっていない。
529	2008/09/30	80529	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無		
530	2008/09/30	80530	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋由来成分(ペプトン)	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無		
531	2008/09/30	80531	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加水分解物	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
532	2008/09/30	80532	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及びカナダ	製造工程	無	無	無		
533	2008/09/30	80533	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
534	2008/09/30	80534	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼインパンクレアチン消化物	ウシ乳	米国、ニュージーランド、オーストラリア、フランス	製造工程	無	無	無		
535	2008/09/30	80535	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及び肺	フランス	製造工程	無	無	無		
536	2008/09/30	80536	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼインペプチドN3	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		

537	2008/09/30	80537	サノフィア スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	トリプトンV	ウシ乳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
538	2008/09/30	80538	サノフィア スツール 第一三共 ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	スキムミルク	ウシ乳	米国及び英 国を除くヨー ロッパ	製造工程	無	無	無			
539	2008/09/30	80539	伊藤ライフ サイエンス	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリン ナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共 和国	有効成分	無	無	無			
540	2008/09/30	80540	伊藤ライフ サイエンス	バルナパリンナトリウム	バルナパリン ナトリウム	ブタ腸粘膜	中華人民共 和国	有効成分	無	無	無			